

平成 30 年度（2018 年度）第 2 回熊本市行財政改革推進委員会 議事録（要旨）

1 日 時

平成 31 年（2019 年）3 月 26 日（火） 午前 10 時 00 分から正午まで

2 場 所

市役所議会棟 2 階 議運・理事会室

3 出席委員（敬称略、順不同）

澤田道夫（会長）、清田幸子（副会長）、田中三恵子、石井美代子、木村光伸、吉村次郎、藤田英介、東山恵子、賀来花帆

4 配付資料

資料 1-1 第 5 次行財政改革計画の進捗状況について

資料 1-2 第 5 次行財政改革計画

＜平成 30 年度（2018 年度）進捗状況 3 月末見込み＞

資料 2 まちづくり支援機能強化に向けて

資料 3 第 5 次行財政改革計画終了後の取組方針について

5 次 第

開会

(1) 総務局長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 議事

ア 第 5 次行財政改革計画 平成 30 年度（2018 年度）進捗状況について

イ 個別の実施プログラム

テーマ【2】区役所の機能強化

【3】区役所・出張所のあり方とまちづくり推進体制の見直し

(4) その他

第 5 次行財政改革計画終了後の取組方針について

6 議事録（要旨）

総務課審議員	・ 議題アについて、【資料 1-1】に基づいて説明
吉村委員	・ 【資料 1-2】 P3 プログラム 【2】「区役所の機能強化」、指標②「区役所のまちづくり活動を身近に感じる市民の割合」について、目標値が 26%とあるが、指標の数値が低下しているのは、目標値が下がっているということか。
総務課長	・ 目標値は 26%となっているが、基準値は平成 24 年度（2012 年度）の 18.8%としている。途中の段階で目標を上回る成果が得られたということになる。
藤田委員	・ 進捗状況 B について御説明いただいたが、これまで取り組んだ中での課題を教えてくださいと議論が活発になる。把握されている課題を教えてください。
総務課長	・ 全般的な課題の整理はしていない。個別の課題は、資料の進行管理票を御確認いただきたい。遅れているものの内容については、震災の影響で工事の進捗が遅れているものや、より検討を深めていくために次年度も引き続き検討を行うものなどがある。
澤田会長	・ 進捗状況 B については、来年度はどのような形で進捗管理を行っていくのかを教えてください。
総務課長	・ 来年度はこれまでの 5 年間の取組の総括を行う。残っている課題は、今後もその達成を見極めていく。この委員会は、来年度も引き続き開催するので、皆様の御意見を伺いながら進めていきたい。
澤田会長	・ 来年度は第 5 次行財政改革計画の報告を踏まえて、委員の皆様に御意見をいただくということで、よろしく願います。
清田委員	・ 【資料 1-1】 P2 プログラム 【18】「ビジネス専門学校の見直し」について、私の記憶では、見直しは長年の課題だったと思う。入学希望者や人気といった必要性に関して、どういう状況なのか教えてください。また、「事務局内に専門部署を設置」というのは、平成 31

総務課審議員	<p>年（2019年）4月からでよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス専門学校の現状について、定員は2次募集、3次募集で満たしている状況。就職率がいいと聞いている。専門部署は平成31年度（2019年度）から設置し、市立高等学校と併せて総合的に見直しを検討していく。
清田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・継続ということでの検討か。または、継続するかどうかも含めて検討なのか。
総務課審議員	<ul style="list-style-type: none"> ・継続するかどうかも含めての検討である。
石井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・【資料1-1】P1プログラム【13】「熊本市優待証及び乗車券のあり方の検討」について、シニア世代が増えていく現状があり、財政は大変だが、まちの活性化にはとても大切な施策である。これがあるから熊本市に入ってもらえる方もおられる。今後の方針について、どういう道筋になるのか伺いたい。
総務課審議員	<ul style="list-style-type: none"> ・優待証は、高齢者の社会参加の機会を増やすための施策だが、検討会の中で、この施策だけでなく健康増進を目的とした施策と併せて検討を行うべきという意見が出されたため、次年度以降も引き続き検討を行うこととした。
澤田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それについては、私が検討委員会の座長をしているので付け加える。高齢者の方の社会参加と同時に、障がい者の方の社会参加という目的があり、障がい者の方にはもっと使い勝手を良くするべきだという意見があった。高齢者の方については、遠距離までバスが使える方とまったく使えない方がいて、その不公平感があった。 ・また、バス事業者に値引きを強要している部分もある。バス事業者には税金から差額が支払われていることなどを含めて、見直しを検討する方向である。全部無くすということではなく、健康増進の観点と、地域への社会参加の観点を含めて検討したいということである。 ・私から1点。ところどころ散見されたが、例えば、プログラム【15】「市立保育園の見直し」について、国の政策が見直され、国費の投

	<p>入具合が変わってしまった場合は、5年前に定めた計画の内容を変更するかどうか。変わってもそのままいくのかどうか伺いたい。</p>
<p>総務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国の方針が変われば、取組の修正を行うことになる。
<p>澤田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画も決めたら仕方がなくやるのではなく、状況の変化で柔軟に見直すこともある、という理解でよいか。
<p>総務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのように行っている。
<p>賀来委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【資料 1-1】 P2 プログラム 【15】 「市立保育園の見直し」について、「局内で検討を行ったが、関係部局の協議には至らなかった」とあるが、何が壁になって進まなかったのか伺いたい。
<p>総務課主査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初には待機児童はなくなるが、その後徐々に待機児童が増えていく現状がある。無償化がなされた場合、では預けようかという方が出てくることも考えられる。その潜在的な需要の見極めが難しいため、局を跨いだ連携に至っていないということである。
<p>澤田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入所希望者がどっと増えてしまうことも考えられるということか。そうすると、保育士を雇わないといけないということもあるのか。
<p>総務課主査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうところも含めて、事前の想定が難しい部分がある。
<p>清田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きプログラム 【15】 について、プログラム名が「市立保育園の見直し」、実施項目も「市立保育園の見直し」であり、何を見直すのか全くわからない。こういう市役所特有の言葉は、特に市民が進捗状況をチェックしないといけない行革では、できるだけ避けていただきたい。 ・プログラム 【15】 でいうと、定員の話なのか、保育内容の見直しなのかわからない。私の経験上、自信がある項目は具体的にアピールされるが、自信がない項目は「市役所言葉」で塗されるということがよくある。もう、そういう時代ではない。行革をやるには、市民の負担とか協力を求めないといけないことがあるので、ぜひ、今後の計画は具体的にやっていただきたい。

吉村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム【15】「市立保育園の見直し」について、今後こういったあり方を検討していくのか。現場の保育士も危惧している面がある。具体的な保育所等への指導、説明責任を果たしていただきたい。 ・例として、10連休について、東部方面では全く開けないとか、どうしても開けなければならないところは利用料を徴収して開けなさいとか、通知がばらばらで一貫性が無いという話を聞いた。保育の問題については、積極的に対応していくことが基本だと考える。
澤田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の方から御指摘があったので、事務局から関係部局に留意するようお伝えいただきたい。
石井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・【資料1-1】P3プログラム【59】「橋梁長寿命化修繕計画の推進」について、安全に関わるので、非常に重要な取組である。最近、事故が多いので、きちんと優先順位をつけてやっていただきたい。
澤田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・こちら事務局から担当部局へ伝えていただきたい。それでは、先に進む。事務局から説明をお願いします。
地域政策課長、各まちづくりセンター所長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題イについて、【資料2】に基づいて説明
吉村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいが西区池田校区だが、花園まちづくりセンターは熊本市内でも先導的にまちづくりの取組が行われた地域だと思う。上熊本エリアでは、3年間熊本市から補助金を受けていたが、今後もまちづくりに対して、区で予算措置をいただけるのかお聞きしたい。
地域政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・各区では、まちづくり支援のため、まちづくり推進経費として活動支援の補助要綱を定め、その中で使用の目的や期間を明記している。今後、活動内容を年度更新していくのか、新たに活動内容を変えて補助申請をするのか、花園まちづくりセンターと協議をしていただきたい。
花園まちづくりセンター所長	<ul style="list-style-type: none"> ・各区に2千万円のまちづくり推進経費がついているが、来年度花園まちづくりセンターでは、地域課題への取組として、子ども全体を

<p>吉村委員</p>	<p>対象とした事業を考えており、地域の方と協力して協議を進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本市が政令市になり、5区に分かれ、区ごとに生活の実態が違う中で、単独の校区だけでまちづくりを進めていくことは難しい。地域によっては、例えば、上熊本エリアの城西、花園、池田3校区で展開していく事業も必要である。 ・もう一点は、区の2千万円の補助金はどう使われているのか分かりにくい。区に住民サービスを任せるだけでなく、熊本市の事業として、局と区と連携してやっていただきたい。 ・先ほど質問した【資料 1-2】 P3 プログラム【2】「区役所の機能強化」の「成果」について、平成24年度（2012年度）の数値を基準にして目標を立てたということだが、平成29年度（2017年度）にまちづくりセンターを設置し、新たな取組を展開しているので、その際に、数値目標の見直しを行うべきだったと感じた。
<p>澤田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吉村委員から御提案いただいた、今は校区単位で行っているまちづくりの取組を、複数校区で連携するとか、まちづくりセンター単位で行うとか、そのような視点も持っていただきたい。 ・また、まちづくり推進経費の使い方、あるいは、どのように使ったかを市民に周知していくということを、局と区で話していただきたい。また、北区で調査された住民の満足度、まちづくりに関するアンケートは、きちんとした仕様を定める、見直しをする、といった御検討をお願いしたい。
<p>田中委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の活動について御説明いただいたが、地域の問題を解決するための活動と、地域だけではなくて市全体で取り組むべき活動がみられた。そういうものをどう全体に生かしていくのか考えていただきたい。 ・例えば、今後は生活していくうえで、IT技術はとても重要になってくるが、高齢者についてはまだ立ち遅れている。中央区のLINEの取組、東区の町内の地図を配布する取組、北区の買い物難民者の支援といった取組は、熊本市全体に活用できる。 ・【資料2】 P2 幸田まちづくりセンターの取組で、「肥後六花」の取組があったが、これは熊本市だけでなく、日本の歴史的文化的な財産

<p>澤田会長</p>	<p>として、全国的な取組としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は肥後六花の技術は一子相伝だったが、今は後を継ぐ人がいない。肥後六花全体を見ても、取組が遅れているというより、着手されていない。熊本の歴史的文化的な財産価値に、目を向ける方が少ないことを残念だと思っていたが、幸田まちづくりセンターでやっていた。これを熊本市全体に広げていただきたい。 ・まちづくりセンターの取組について、これは重要な取組だからと、全市にフィードバックしていく仕組みがあるのかどうか教えていただきたい。
<p>地域政策課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各まちづくりセンターが実施している取組については、まちづくりセンターが集まって情報共有を行っている。 ・また、取組の情報提供について検討していきたい。
<p>澤田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンターの取組が、パイロット的な取組として良いものであれば、ぜひ全市に広げていくような、そういう仕組みを構築していただきたい。
<p>東山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、平成 29 年（2017 年）1 月に熊本転入ママの会という団体を立ち上げて、まちづくりセンターが開設してすぐから、ずいぶんお世話になっている。今日しっかりと説明をお伺いして、こういう思いがあって、活動されているのだなと理解した。 ・【資料 2】 P 4 に「めざす地域担当職員像」が書かれているが、まさに、こういう職員の方に関わっていただき、大変ありがたいと思う。 ・たまたま団体をやっており、団体としてまちづくりセンターとのやり取りがあるが、一般の方がまちづくりセンターを知らないということが、とても残念だ。P 8 に「住民との日常の会話など」から、区として課題を選定していると書かれているが、実際に住民との会話の機会を設けているのかどうかお伺いしたい。
<p>中央区まちづくりセンター所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンターの周知広報について、平成 29 年（2017 年）4 月にまちづくりセンターが設置されて、市政だよりの掲載やラジオ等の広報、また、地域の自治会とかいろいろな団体の活動に参加して顔を売っているところ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東山委員がおっしゃるとおり、一般の方にあまり知られていないという点は課題として認識している。その課題をどうしていくのかということで、地域担当職員が LINE とかフェイスブック等を駆使して情報を発信している。また、いろいろなイベントを通して、じわじわと一般の方に顔を知られていっているのではないかと思う。今後も LINE やフェイスブックを使って、地域担当職員の仕事を市民の皆さんに知っていただき、認知度を上げていきたいと考えている。 ・ 「住民との日常の会話など」というところは、どちらかといえば、地域団体や自治会などに顔を出して話をするケースが多いが、そのほかでも、中央区まちづくりセンターでは大きな商店街を抱えているので、地域団体に限らず、いろいろな商店の方々との日常会話の中で、市政について伺っている状況である。
澤田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たち市民の側にも、団体をやっていれば相談してみようかという意識もあるが、市民一人ひとりの意識として、自分には関係無いと思わずに、何か困り事があった時に、ああそうだと意識の持ち方を変えていく必要もあるかと思う。
石井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほども言われたが、【資料 2】 P4 のめざす「地域担当職員の職員像」をみて、とても魅力的な方々だと思って聞いていた。こういう方々は、自ら地域担当職員を希望されるのか。それとも単なる人事的な異動なのか。 ・ 職員にもいろいろな方がおられると思うが、ミスマッチなら大変である。しかし、もしミスマッチであったとしても、「めざす地域担当職員像」に向かって努力している姿が垣間見える。自分がどういう立場で見られているかを意識することは、大事なことである。 ・ もう一点は、地域の自治の問題。一般の市民の意識として、誰かにやってもらえるならやってもらいたい、という気持ちがあるので、持続可能な社会を目指していくためには、私たち一人ひとりの自覚が必要だと思った。
澤田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域担当職員の人事はどうなっているのか。
行政管理部長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事異動のスタートは、すべての職員に自己申告書を出してもらう

<p>吉村委員</p>	<p>ことで始まる。異動希望の部署を第3希望まで出してもらうが、今回、「〇〇まちづくりセンター」と希望を書いてくる職員も目立った。その中でも、地域担当職員にマッチした人材を選んで配置している状況。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一言お礼だが、熊本市が作成された「つながる、安心。だから、町内自治会。」というパンフレットに、池田校区地域福祉員会が30年近くやっている、高齢者に給食サービスを行う「ふれあいランチ事業」の写真を載せていただき感謝している。 また、花園まちづくりセンターの職員には、校区自治協議会の役員会や各種事業といった地域活動に参加していただいているので、今後ともまちづくりセンターを起点として、いろいろな事業を展開していただければ幸いである。いつも花園まちづくりセンターにはお世話になっているので、この場を借りてお礼を申し上げる。
<p>清田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 吉村委員に引き続きお礼だが、うちでもまちづくり事業についていろいろと取材をさせていただいており、お世話になっている。 紙面を見ると、かなりきめ細かに地域課題を捉えていらっしゃる、非常にアイデア豊かな事業を行っている印象がある。その分、吉村委員もおっしゃったとおり、地域の会合に出席されたり、土日のイベントだったり、夜間の会議だったり、現場はエネルギーを注いでいらっしゃる。そういう印象を持っていらっしゃる方が多いと思う。 「めざす地域担当職員像」は、そのまま「めざす市職員像」になる。今後、まちづくりセンターでも人事異動が進んでいくが、本庁でもそういう意識を持って、地域課題を捉えて、施策に生かしていただくことがまちづくりセンターの最終的なゴールだと思うので、ぜひ、そういう形で市の行政を進めていただきたい。
<p>賀来委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> どのまちづくりセンターでも、まちづくりの担い手や地域課題解決のための人材不足、高齢化が問題になっていると思うが、ぜひ大学生を活用していただきたい。大学生は、今後子育て世代や、社会に出て現役世代になるので、地域との繋がりがあると熊本に愛着がわき、その土地に定着するのではないか。特に大学生は時間もあるので、地域課題解決のために手伝ってもらうこともいいかと思う。
<p>澤田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 賀来委員の御意見も非常に重要な視点である。ぜひそういう視点も

<p>木村委員</p>	<p>持っていたきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンターの必要性について話があったが、自治会の方から、できてよかったという話を聞く。提案として、区長の権限をもう少し強化するべきではないか。できるだけ区単位で、話が終わる形がとれないのか。また、相談の内容は技術系が多いので、技術職を配置することで、ワンストップ化できて、担当レベルで話が終わる部分もあるのではないか。 ・もう1点、やはり「めざす地域担当職員像」が「めざす市職員像」であれば、多少ミスマッチな方もまちづくりセンターへ異動する必要があるかと思う。そういった意味では、在職年数を制限する、例えば4年以上は配置しないとか、そういう制限ができればと思う。 ・気になるのが、頑張っている職員の方の体調面が大丈夫なのかということ。自治会との業務が多いということは、土日の業務が多いので、代休がとれているのかどうか。夜間の業務が多いのであれば、時間外勤務が通常の職員と比べて多いのではないか。そういう部分も見ていただきながら、職員の体調管理には十分留意していただきたい。
<p>澤田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木村委員の御質問である労務管理について事務局から何かないか。
<p>中央区まちづくりセンター所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木村委員のおっしゃるとおり、夜間や土日に地域に出ていくケースが他の職員に比べて圧倒的に多い。平日夜間の定例会だと19時から21時に開催されるので、そういう時には繰り下げ出勤の制度を利用して、昼頃から出勤する形にして体調面に配慮している。土日についても、全部とはいかないが、できるだけ体調面の配慮、労働環境の配慮を行い、勤務日の振替を積極的に奨励して取得させている。
<p>澤田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木村委員の御指摘を踏まえて、地域担当職員の方々のモチベーション、体調管理にも留意していただきたい。 ・地域担当職員は、これから人事異動とか出てくると思うが、私からの要望で、ぜひノウハウの継承を今後念頭においていただきたい。地域担当職員として後任の方が来て、引継ぎは行われるだろうが、文章に残せないようなノウハウ、思い出せないけど、そういえばこ

	<p>ういうこともあったとか、そういう部分の継承をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場合によっては、地域担当職員から異動された方を、本来の役職とは別にアドバイザーとして肩書を与えておいて、数か月に1回相談に乗るとか、現場から相談された時に、所属で動きやすくするというような制度も考えられたほうがいい。 ・ぜひ、スーパー公務員、スーパー市職員を育てるような、職員の登竜門のような、そういうものに地域担当職員がなっていけばいい。 ・それでは、次に進ませていただく。
総務課審議員	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次行財政改革計画終了後の取組について、【資料3】に基づいて説明
澤田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・私から確認だが、この委員会のメンバーの任期はいつまでか。
総務課審議員	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度（2019年度）末までとなっている。
澤田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この委員会自体は、来年度も継続して、第5次行財政改革計画の振り返りと市役所改革に向けての意見提言を行っていく、そういうことでよいか。
総務課審議員	<ul style="list-style-type: none"> ・その予定である。
石井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次行財政改革計画の次は、第7次総合計画に統合するということがよいか。
総務課長	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも総合計画の中に、行財政改革の取組は位置づけられていたが、来年度第7次総合計画の中間見直しが行われる中で、これから整理していく第5次行財政改革計画の取組についても整合性を測りながら、今後も取組を進めていきたい。
木村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、第5次行財政改革計画は終わり、新たな取組として、量から質への転換ということだが、これまでの行財政改革は量的な部分が多かった。あくまで個人的な意見だが、特に人員に関する部分で、今回の熊本地震では反省すべき点があると思うので、総括はきちんと行っていただきたい。この5年間で熊本地震もあった。それを踏

	<p>まえて総括した上で、今後の市役所改革に取り組んでいただくようお願いしたい。</p>
澤田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に重要な視点なので、ぜひよろしくお願いしたい。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・次期計画に向けていろいろと進めていらっしゃると思うが、第5次行財政改革計画では、財政面の指標の進捗状況が見えにくかった。次期計画では、今後の財政調整基金の推移をどのレベルにしていくか、そのためにこの施策を打っていくというような、財源をベースにした計画策定をしていただきたい。そうしたほうが、市民も非常にわかりやすいし、あとの効果測定がやりやすい。
澤田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ、来年度の振り返りでは、財政面についても、われわれ委員にわかりやすい形で示していただきたい。
石井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・少ない人数で頑張っていかれるということは、それぞれの職員の能力が一番重要になってくると思うが、ある程度の決まった人員は必要なので無理のない形でやっていただきたい。
澤田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様から様々な御意見をいただいた。次期計画について、量から質へと変わっていくということについて、またこの委員会の中でも見せていただきたい。 ・まちづくり支援機能強化に向けた取組を御報告いただいたが、委員の皆様からもまちづくりセンター、地域担当職員への期待は高かった。その取組を全市に波及させていくような制度の構築をぜひお願いしたい。 ・それでは議事を終了する。